

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

令和5年4月18日（火）

3. 調査の対象

泉佐野市立上之郷小学校 第6学年、全児童

実施児童数（ 42 人）

4. 調査の内容

（1）児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査

- （ア）小学校調査は、国語及び算数とし、中学校調査は、国語、数学及び英語とする。
- （イ）出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。
 - ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
- （ウ）調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、国語及び算数・数学においては、記述式の問題を一定割合で導入する。英語においては、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」及び「書くこと」に関する問題を出題し、記述式の問題を一定割合で導入するとともに、「話すこと」に関する問題の解答は、原則として口述式によるものとする。

イ 質問紙調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査（以下、児童を対象とする場合は「児童質問紙調査」、生徒を対象とする場合は「生徒質問紙調査」、児童及び生徒を対象とする場合は「児童生徒質問紙調査」という。）を実施する。

（2）学校質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査（以下「学校質問紙調査」という。）を実施する。

※平成29年度より、文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は、整数となっております。

令和5年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国よりも上位層が少なく、中位層に偏っている。
平均正答率（本校 55／泉佐野市 62／大阪府 66／全国 67.2）

国語	特徴がみられた設問
<p>【言葉の特徴や使い方に関する事項】 ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うこと 1三(1)ア 【川村さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す(いがい) (42.9/52.8)</p> <p>○送り仮名に注意して、漢字を文中で正しく使うことができる 1三(1)イ 【川村さんの文章】の下線部イを送り仮名に気を付けて書き直したのとして適切なものを選択する (83.3/93.1)</p> <p>【情報の扱い方に関する事項】 ○情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解しつかうこと 2三 相田さんが【資料3】の情報をどのように整理しているかについて説明したものとして適切なものを選択する (31.0/62.0)</p> <p>○原因と結果など情報と情報との関係について理解すること 1一 米作りのときに記録していた【カード②】と【カード③】の下線部の関係として適切なものを選択する (50.0/64.7)</p> <p>【話すこと・聞くこと】 ○必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えること 3一(1) 【インタビューの様子】の傍線部イ(～ということだと思いますが、あっていますか。)のように質問をした理由として適切なものを選択する (52.4/73.6)</p>	<p>○目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること 3二 寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、わかったことをまとめて書く (57.1/70.2)</p> <p>【書くこと】 ○図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるようにかき表し方をくふうすること 1二 【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く (14.3/26.7)</p> <p>【読むこと】 ○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること 2二 【相田さんのメモ】の空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する (50.0/67.4)</p> <p>○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること 2四 資料を読み、運動と食事の両方についてわかったことをもとに、自分ができそうなものを選択する (42.9/56.2)</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の勉強は好きですか	50.0	61.5	○	11.5
国語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思いますか	85.8	92.8	◇	7.0
国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめていますか。	69.1	76.8	◇	7.7
自分の意見と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	71.5	76.5	◇	5.0
国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目していますか	69.1	82.3	○	13.2
解答時間は十分でしたか	57.2	64.1	◇	6.9
読書は好きですか	66.7	71.8	◇	5.1

○国語の勉強が好きだと感じている児童の割合が全国平均より低く、また、昨年度よりも減少している(今年度 50.0/昨年度 66.6)。

○どの項目においても全国平均を下回る結果となった。特に、【(2)情報の扱い方に関する事項】(本校 40.5/全国 62.6)、【書くこと】(本校 14.3/26.7)に課題がみられる。

○自分と立場や考えが違うことに意識を向け、考える力に課題がある。

○解答を文章で書く問題にし、【すべての書く問題で最後まで解答を努力した】と回答した児童が全国平均よりも上回った(本校 85.7/全国 80.7)。しかし、解答時間に関して、やや足りなかったと回答した児童が全国平均よりも多かった(本校 38.1/全国 27.0)。そのため努力はしたものの、書くことに時間がかかり、最後の問題では無回答率が高くなった(本校 16.7/全国 9.5)。

○読書は好きだという児童が昨年度は全国平均を上回っていたが(昨年度本校 77.8/全国 73.1)、本年度は好きだという児童が減っている(今年度本校 66.7/全国 71.8)。

○授業時間以外に本を読む時間が2時間以上と答える児童は全国よりも割合が高いものの(本校 11.9/全国 7.9)、中間層が少なく、全く読まないという児童も多い(本校 35.7/全国 24.7)という差が生じている。

令和5年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

- 平均正答数の全体的な分布状況は、上位層が少なく中間～やや下層の児童の割合が多いため、中央値が二問分低い

平均正答率（本校 53／泉佐野市 59／大阪府 62／全国 62.5）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

算数	特徴がみられた設問
<p>【数と計算】</p> <p>○一の位が0の二つの二位数について、乗法の計算をすること 1(4) 全部の椅子の数を求めるために、50×40を計算する (73.8/80.8)</p> <p>○()を用いた式や、加法と情報の懇望した式を場面と関連付けて読み取ること 3(1) 2種類の時点を全部並べた長さを求める二つの式について、それぞれどのようなことを表しているのかを選ぶ (52.4/70.3)</p> <p>○示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できる 3(2) 3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうか判断する (35.7/56.7)</p> <p>○加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができる 3(3) $(151+49) \times 3$と$151 \times 3 + 49 \times 3$を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める (54.8/72.4)</p> <p>○(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができる 3(4) $66 \div 3$の筆算のしかたを説明した図を基に、筆算の商の十の位にあたる式を選ぶ (35.7/47.6)</p> <p>【図形】</p> <p>○正方形の意味や性質について理解している 2(2) テープを折ったり切ったりしてできた四角形の名前を書く (88.1/87.2)</p> <p>○三角形の意味や性質、等積変形についての理解 2(3) 切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く (19.0/20.6)</p> <p>2(4) テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小についてわかることを選び選んだわけを書く (9.5/20.8)</p>	<p>【変化と関係】</p> <p>○伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述することに課題がある 1(3) 椅子4脚の重さが7kgであることを基に、4脚の重さの求め方と答えを書く (33.3/55.5)</p> <p>○百分率で表された割合について理解しているかどうか 4(1) 示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ (35.7/46.0)</p> <p>【データの活用】</p> <p>○示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見出した違いを言葉と数を用いて記述できる 4(3) 二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、わかることを書く (33.3/56.2)</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の勉強は好きですか	57.1	61.4		4.3
算数の勉強は大切だと思いますか	92.8	94.2		1.4
算数の授業内容はよく分かりますか	88.1	81.2	◇	6.9
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	95.2	93.3		1.9
解答時間は十分でしたか	95.2	84.5	○	10.7

○昨年度より算数の勉強が好きだと思っている児童の数が大きく減少した(本年度 57.1/昨年度 81.5)。

○算数の授業内容はよくわかると答えている児童は全国平均よりも高いものの(88.1/81.2), 実際の学力には結びついていない【平均正答率】(53.0/62.5)

○問題番号2についてどの設問においても全国平均を大きく下回り, 【数と計算】領域に課題がみられる

○解答類型をみると, 問題を正確に読み取ることに課題がみられる。

令和5年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
【家庭生活の様子】	<p>○不規則な生活リズムで過ごしている児童が多い</p> <p>○普段、読書をしない児童の割合が高い</p> <p>○家庭で計画を立てて学習していない</p> <p>○平日の家庭での学習時間が短い</p>	<p>○朝食を毎日食べていますか (88.1/93.9)</p> <p>○毎日、同じくらいの時間に寝ていますか (69.0/81.0)</p> <p>○学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか (全くしない 35.7/24.5)</p> <p>○家で自分で計画を立てて勉強をしていますか (61.9/70.7)</p> <p>○学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか (30分以上、1時間より少ない 35.7/26.9)</p>
【子ども自身について】	<p>○自分自身に自信が持てていない割合が高い</p>	<p>○自分にはよいところがあると思いますか (76.2/83.7)</p> <p>○自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか (71.5/76.5)</p> <p>○普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか (85.7/91.0)</p>
【学校生活について】	<p>○学校という環境が安心して過ごせる環境である</p> <p>○学習という面でみると自分で考えとりくむこと、また、学んだことを他につなげることに課題がみられる。</p>	<p>○困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか (76.2/68.5)</p> <p>○学校に行くのは楽しいと思いますか (92.8/85.3)</p> <p>○友だち関係に満足していますか (95.2/90.3)</p> <p>○5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか (69.0/78.8)</p> <p>○授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか (71.0/81.9)</p>
【国際教育について】	<p>○外国語、特に英語について全国よりも興味・関心を持っている割合が低い</p>	<p>○英語の勉強は好きですか (57.2/69.3)</p> <p>○英語の勉強は大切だと思いますか (78.5/91.3)</p> <p>○外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか (66.6/72.5)</p>

本校の取組

◎これまでの取組

本校では、本年度より研究主題を『クラス全員をアクティブな思考にする』～子ども主体の授業づくり～として、子どもたちが「できる楽しさ・わかる楽しさ・つくる楽しさ・仲間と一緒に活動する楽しさ」を実感できる授業づくりを目標にとりくんでいる。

○主題追求のためのとりくみ

1. 自力解決型学習を行う。

- 子どもたちの発言の中から課題をつくり出す。
- 既習の学習内容を使って子ども自ら考える学習を実践する。
- 課題解決のための相談の時間を確保する。
- 授業展開を工夫する

2. ペア・グループ学習にとりくむ。

- 少人数での課題解決のための相談の時間をつくる。
- 少人数での自分の考えや意見を発表・交流する時間をつくる。
- 交流のためにクロームブックやホワイトボードを活用する。

3. 基礎・基本の学力の定着を目指す。

○朝の学習…算数、国語の基礎的・基本的な知識の習得のためにとりくむ。

内容は、週単位で算数と国語を交代で実施し、基礎基本の定着を図る。

読書や漢字の学習、語彙を増やす活動、読み聞かせ、1分間スピーチ、音読、朗読、視写、計算練習や文章題、活用問題を行う。

○マストレ…算数の基礎・基本の学力の定着を図るためにとりくむ。

方法として、家庭学習の課題として既習の内容の学習プリント(基礎基本の計算、単位変換など)を出し反復練習する。

○家庭学習の習慣づけ

- ・年度はじめに家庭学習の手引きを各家庭に配布する。
- ・毎学期はじめに子どもの家庭学習の習慣をつけるため家庭へよびかける。

◎これからの取組

今年度から始まった研究主題『クラス全員をアクティブな思考にする』～子ども主体の授業づくり～に向けて上記のこれまでのとりくみを基本として行う。

さらに、課題がみられた点を改善するため、以下のように、重点的にとりくむ。

○物語などを読む場合は、その話がどのようなものなのかを想像しながら読むようにして、内容をおさえられるようにする。

○語彙力などの言葉について「ことばの力」プリントにとりくんだり、読書の習慣をつけたりする。

○前学年までの学習を振り返るために当該学年の単元だけでなく、それ以外の単元の復習を朝学習や宿題としてとりくんだり、マストレも当該学年ではなく下の学年の復習をしながら継続的に行ったりして、基礎基本の計算力の定着を目指す。

○授業の中で、話し合い活動や自分の考えを書く活動、調べ活動において ICT を活用していく。

また、下記の昨年度に提案した取り組みも継続的にやっていく。

○自分の意見を書く時間をつくる

- ・自分の意見をノートなどに書く前に、ペアや班などで話し合いを行うことで、どのように考えればいいのか、自分の意見の参考にすることができる
ホワイトボードにまとめる、聞き取ってメモをする（オープクエスチョン）
付箋・クロームブックなどを活用する。

○「自分のことを書いておわり」「自分だけ」ではなく、友だちのよさを伝え合う自分の意見と比較する

- ・友だちの意見を聞いて、いいところを見付ける
- ・友だちの意見と自分の意見を比べ、同じなのか違うのか考える

○なぜそうするのか、を考える時間をつくる

- ・「ただ教科書に書かれているから・先生が言うから、これをする」、ではなく、
- ・なぜ、それをする必要があるのか、なぜそうなるのかを授業のなかで考える時間をとる

○授業の流れのポイント

- ①各単元の節目ごとに、めあてに入るまでの導入の工夫←自分事としてとらえるため
- ②見通しをしっかりと考え、どう考えるかを自分で決定する←どう考えるか自分で決める
(自己決定)
- ③いろいろな意見が出た後
その中からどうすればいいのか、何がいいのかなど考える時間をとる
(自己選択)